

## 染織史

大久保 尚子

3年 後期 選択 学芸員課程必修 (2単位 講義)

## ■授業の方針・概要

日本の染織技法の種類と歴史的展開を、意匠との関係、海外との影響関係にも注目して学習します。各時代に特徴的な染織意匠を文化的背景とともに紹介します。映像資料と実物資料を提示し技法、意匠の特色を体験的に学習し、展覧会見学を通し知識に基づく作品理解を深めます。

## ■到達目標 (学修成果)

- ・歴史上にみられる染織技法について、技法による表現効果の違い、意匠との関係に注目して理解し、自ら具体的な作品例をとりあげ技法と意匠の特徴について説明できる。
- ・意匠と同時代文化との関係について理解を深め、授業で示した資料を活用し説明することができる。

## ■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は、専門選択科目の卒業要件科目です。また、学芸員資格取得のための学芸員課程必修科目です。

## ■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容 (予習・復習等)	必要時間
1回	染織 (テキスタイル) の歴史と現代の服飾の関係 (ディスカッション) / 手仕事と機械工業 / 「織り」の技法、「染め」の技法	予習: 日本の伝統染織作品や関連情報 (図書、報道等) に触れる。 復習: 授業時に示す復習課題に取り組みmanaで解答する。	40分
2回	日本の染織技法の種類と歴史 織の技法① 天然素材による糸、織機の仕組み 織物の基本組織	予習: 初回配布資料の指定箇所を読む。 復習: 課題に取り組みmanaで解答。	30分
3回	日本の染織技法の種類と歴史 織りの技法② 綾、羅、錦 / 正倉院の染織品にみる唐風の受容	予習: 初回配布資料の指定箇所を読む。 復習: 課題に取り組みmanaで解答。	30分
4回	日本の染織技法の種類と歴史 織の技法③ 縫い取り織 (二陪織物、唐織)、縹子織 (縹子、縹子) / 有職織物と名物裂	予習: 初回配布資料の指定箇所を読む。 復習: 課題に取り組みmanaで解答。	30分
5回	日本の染織技法の種類と歴史 織の技法④ 緋、縹、縹 / 近世における外来染織の受容	予習: 初回配布資料の指定箇所を読む。 復習: 課題に取り組みmanaで解答。	30分
6回	日本の染織技法の種類と歴史 染めの技法① 描絵、摺絵、絞り染め、板締め / 天然染料の染色、江戸時代小袖の復元	予習: 初回配布資料の指定箇所を読む。 復習: 課題に取り組みmanaで解答。	30分
7回	日本の染織技法の種類と歴史 染めの技法② 糊防染①型染 (小紋、中形) / ジャポニスムと染色型紙	予習: 初回配布資料の指定箇所を読む。 復習: 課題に取り組みmanaで解答。	30分
8回	日本の染織技法の種類と歴史 染めの技法③ 蟬防染 (縹縹、更紗)、糊防染②友禅染め / 更紗のグローバルな影響	予習: 初回配布資料の指定箇所を読む。 復習: 課題に取り組みmanaで解答。	30分
9回	日本の染織技法の種類と歴史 博物館見学① 染織作品の実地見学	予習: 展示資料情報、特に技法について確認。 復習: 見学レポートに取り組み。	40分
10回	日本の染織技法の種類と歴史 博物館見学② 染織作品の実地見学。質疑応答と見学レポート	予習: 展示資料情報、特に技法について確認。 復習: 見学レポートに取り組み。	40分
11回	日本の染織技法の種類と歴史 まとめ 日本の染織の歴史展開、服飾史との関係/技法と意匠の関係 / 染織技術の近代化	予習: これまでの資料に再度目を通す。 復習: 課題に取り組みmanaで解答。	30分
12回	近世の染織意匠① 友禅風意匠と友禅染の成立	予習: 配布資料指定箇所を読む。 復習: 課題に取り組みmanaで解答。	30分
13回	近世の染織意匠② 光琳文様と琳派の意匠	予習: 配布資料指定箇所を読む。 復習: 課題に取り組みmanaで解答。	30分
14回	近世の染織意匠③ 山東京伝の見立て小紋と江戸の意匠	予習: 配布資料指定箇所を読む。 復習: 課題に取り組みmanaで解答。	30分
15回	近代の染織と意匠 染織技術革新と意匠・ジャポニスムとヨーロッパのデザイン運動・日本のデザイン運動 まとめ	予習: 配布資料指定箇所を読む。 復習: 課題に取り組みmanaで解答。	30分

## ■フィードバック (試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用) 方法

毎時の復習課題や質問にはmanaを利用します。フィードバックは次回授業時、またはmanaで行います。

## ■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	20%
授業内課題 (プレゼンテーション含む)	30%
期末試験・課題 (プレゼンテーション含む)	50%
外部評価・検定試験結果	0%

## ■教科書

教科書は用いず、配布資料プリントによって授業を進めます。

## ■参考文献

小笠原小枝『染と織の鑑賞基礎知識』至文堂 1998年、河上繁樹、藤井健三『織りと染めの歴史』昭和堂 1999年

## ■オフィスアワー・研究室

前期: なし 連絡先: 本校舎一階教務課 後期 授業のある金曜日 (14時~14時30分) 第3校舎講師控え室

## ■備考

プリントはテキスト同様に使用します。毎回必ず持参してください。博物館見学の実施回は、状況により変更する場合があります。詳細は授業時に指示します。

## ファッション・プレゼンテーション演習

児島 やよい

3年 前期 選択 学芸員課程必修 (2単位 演習)

## ■授業の方針・概要

ファッションに関して、ここでは、生活文化全般についてのコンセプト、トレンドやスタイルを幅広く扱います。授業担当者の約30年に渡る現代美術、デザインに関わる展覧会等の実務経験を踏まえて、美術館、博物館をはじめギャラリーや多様な展示施設での多ジャンルの展覧会、教育プログラム等の実例を、テーマに即して提示、見学、解説します。それをもとにグループワークやディスカッションを行い、時代に求められる新しい生活様式を考え、創造に活かす視点を学びます。そして、各自がより豊かな自己表現としてのファッションを探求し、説得力のあるプレゼンテーションの方法を身に付けます。

## ■到達目標（学修成果）

本授業では、展覧会や教育プログラムのリサーチや企画、実施までの過程を知り、ファッションを通していかに新鮮な主張を発信するかを学びます。また、こうした実務を知ることで、学芸員が展覧会や教育プログラムを企画するにあたり、研究、分析の成果などから導かれる新たな視点を活かすという、基本的なコンセプトを理解しそれを具体化できるようになります。

## ■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は、専門選択科目の卒業要件科目です。また、学芸員資格取得のための学芸員課程の必修科目です。

## ■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	オリエンテーション。授業計画。展覧会・教育プログラムの調査、企画・実施の実務につき概要を解説する。（見学先は本授業のテーマに合う展示・教育プログラムの中で、評価の高い候補会場との交渉を経て決定する。以下の予定は先方の関係等により変更することがある。）展覧会等企画書作成の概要を解説する。	予習：シラバスを読んでおく。 これまで鑑賞した展覧会の概要を振り返り、発表できるようにしておく。	60分
2回	見学①教室に集合し、見学内容等を講義してから見学先に行く。アクティブ・ラーニング	予習：見学先について下調べをする。復習：見学内容の小レポート（用紙配布）を作成し、次回の授業で提出する。	30分
3回	見学② 教室に集合し、見学内容等を講義してから見学先に行く。アクティブ・ラーニング	予習：見学先について下調べをする。復習：見学内容の小レポート（用紙配布）を作成し、次回の授業で提出する。	30分
4回	見学③ 教室に集合し、見学内容等を講義してから見学先に行く。アクティブ・ラーニング	予習：見学先について下調べをする。復習：見学内容の小レポート（用紙配布）を作成し、次回の授業で提出する。	30分
5回	見学④ 教室に集合し、見学内容を講義してから見学先に行く。アクティブ・ラーニング	予習：見学先について下調べをする。復習：見学内容の小レポート（用紙配布）を作成し、次回の授業で提出する。	30分
6回	見学についての中間まとめ、ディスカッション。展覧会・教育プログラム企画書のための準備書作成。アクティブ・ラーニング	予習：これまでの見学内容と小レポートを振り返る。復習：企画書案を試作する。	30分
7回	見学⑤ 教室に集合し、見学内容等を講義してから見学先に行く。アクティブ・ラーニング	予習：見学先について下調べをする。復習：見学内容の小レポート（用紙配布）を作成し、次回の授業で提出する。	30分
8回	見学⑥ 教室に集合し、見学内容等を講義してから見学先に行く。アクティブ・ラーニング	予習：見学先について下調べをする。復習：見学内容の小レポート（用紙配布）を作成し、次回の授業で提出する。	30分
9回	見学についての中間まとめ、ディスカッション。展覧会プログラム企画書作成。アクティブ・ラーニング	予習：これまでの見学内容と小レポートを振り返る。復習：企画書案をより詳細に試作する。	30分
10回	見学⑦ 教室に集合し、見学内容等を講義してから見学先に行く。アクティブ・ラーニング	予習：見学先について下調べをする。復習：見学内容の小レポート（用紙配布）を作成し、次回の授業で提出する。	30分
11回	見学⑧ 教室に集合し、見学内容等を講義してから見学先に行く。アクティブ・ラーニング	予習：見学先について下調べをする。復習：見学内容の小レポート（用紙配布）を作成し、次回の授業で提出する。	30分
12回	見学についての全体まとめ、ディスカッション。展覧会・教育プログラム企画書のためのグループワーク。アクティブ・ラーニング	予習：これまでの見学内容と小レポートを振り返る。復習：企画書プレゼンテーションの準備。	30分
13回	期末レポート＝展覧会・教育プログラム企画書のプレゼンテーション中間発表。アクティブ・ラーニング	予習：発表の準備。復習：企画書、プレゼンテーション内容の確認。	30分
14回	展覧会・教育プログラム企画書のプレゼンテーション、グループディスカッション。アクティブ・ラーニング	予習：企画書内容のブラッシュアップ、プレゼンテーションの準備。復習：ディスカッションの振り返り。	60分
15回	まとめ 見学小レポート、企画書のフィードバック。授業全体について。アクティブ・ラーニング	予習：企画書確認 復習：小レポート、企画書にフィードバックを反映させる。	60分

## ■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

Manabaにて小レポート、期末レポートに対する講評と今後の課題、次回見学、授業の内容を掲示する。

## ■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	30%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	40%
外部評価・検定試験結果	0%

## ■教科書 特に指定しない

## ■参考文献 授業時に指示する

## ■オフィスアワー・研究室

前期 土曜日（2時～2時40分）本校舎1階教務課または大学校舎1階 講師控室

## ■備考 できるだけ多くの展覧会、映画、舞台、映像などに触れるようアンテナを張ってください。

## 博物館展示論

横山 昭一

3年 後期 学芸員課程必修 (2単位 講義)

## ■授業の方針・概要

展示は博物館への導入であると同時に、博物館の顔ともいえ、その良し悪しが集客力に大きくかかわってきます。今まで来館者として見ていた「博物館展示」を、学芸員の立場で創造していく皆さんに、長年地域博物館に学芸員として携わってきた実務経験を活かして、博物館展示の意義や歴史、実際の事例等を総合的に講義します。一人でも多くの観覧者を集客し、少しでも長く館に滞留して、興味や好奇心を起こさせる展示の開発や運営ができる学芸員の育成を目指します。

## ■到達目標（学修成果）

- ①博物館における展示の歴史、展示の諸形態から教育活動、展示メディアに関する理論や方法に関する知識・技術が習得できる。
- ②ユニバーサルデザインの考え方や展示評価を学び、照明理論やディスプレイ等の今日的課題を主体的に考えることができる。

## ■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は、卒業要件科目ではありません。博物館学芸員資格取得のための学芸員課程必修科目です。学芸員として必要な展示に関する理論や実践方法を学びながら、社会人としての幅広く深い教養と総合的な判断力の向上をめざします。

## ■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	博物館展示論のガイダンス ・展示に関するアンケート実施。 「あなたが考える良い博物館像」を各自発表。	予習:シラバスを読む。機会あるごとに多くの博物館施設の展示を見ておく。	60分
2回	展示の原則・理念 展示の基本要素、展示の原則を広義の展示を交えて学ぶ。	復習:配付資料を振り返り、事例報告も含めて内容を整理しておく。	20分
3回	展示の種類 博物館展示の命題や要件、博物館展示の種類を学ぶ。	復習:配付資料を振り返り、事例報告も含めて内容を整理しておく。	20分
4回	展示と展示論の歴史 博物館展示論の研究の歴史を学ぶ。 小テスト	復習:配付資料を振り返り、事例報告も含めて内容を整理しておく。	20分
5回	常設展示と企画展示 館種や設置目的によって異なる展示の特徴を学ぶ。	復習:配付資料、小テストを振り返り、事例報告も含めて内容を整理しておく。	20分
6回	展示業務の実際—構想から施工まで— 計画設計、実施設計の流れと各段階での業務を学ぶ。	復習:配付資料を振り返り、事例報告も含めて内容を整理しておく。	20分
7回	展示室の構成Ⅰ 環境・空調・動線・照明・音響・セキュリティ 動線計画や照明を中心に学ぶ。	復習:配付資料を振り返り、事例報告も含めて内容を整理しておく。	20分
8回	展示室の構成Ⅱ サイン・展示ケース・演示具 展示ケースの役割・種類、メンテナンスについて学ぶ。	復習:配付資料を振り返り、事例報告も含めて内容を整理しておく。	20分
9回	展示の技法Ⅰ 映像・インタラクティブ展示、ハンズオン展示 映像展示の特徴やハンズオン展示の実際を学ぶ。 小テスト	復習:配付資料を振り返り、事例報告も含めて内容を整理しておく。	20分
10回	展示の技法Ⅱ 展示グラフィック・解説文・展示図録 展示パネルの種類や解説文、図録作成のプロセスを学ぶ。	復習:配付資料、小テストを振り返り、事例報告も含めて内容を整理しておく。	20分
11回	展示の技法Ⅲ ワークシート・ワークブック・教育プログラム 教育プログラムの実例を通して利活用のあり方を学ぶ。	復習:配付資料を振り返り、事例報告も含めて内容を整理しておく。	20分
12回	展示の技法Ⅳ ユニバーサルデザイン・展示評価 ユニバーサルデザインの考え方、展示評価の目的を学ぶ。	復習:配付資料を振り返り、事例報告も含めて内容を整理しておく。	20分
13回	博物館展示の情報化と広報活動 小テスト 展示解説の方法、他言語表記、広報活動のあり方を学ぶ。	復習:配付資料、小テストを振り返り、事例報告も含めて内容を整理しておく。	30分
14回	博物館展示の実際（施設見学） 見学や学芸員との質疑を通して館の課題を知り評価を行う。 ・見学レポート作成	予習:事前案内や配付資料を読み返す。 見学レポートをまとめる。	60分
15回	まとめ 授業や施設見学の課題（試験やレポート等）のフィードバックを行い、これからの展示について討議する。	復習:試験問題を振り返る。	60分

## ■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

各小テスト後の講義で内容解説、15回目に課題について返却と解説を行う。

## ■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%
外部評価・検定試験結果	0%

- ①レポート ②小テスト  
③授業姿勢（欠席・遅刻も含む）

## ■教科書

なし 課題内容に即した資料プリントを配布します。

## ■参考文献

加藤有次他編 「新編博物館学講座9 博物館展示論」 雄山閣  
青木豊著 「博物館展示の研究」 雄山閣

## ■オフィスアワー・研究室

講義日の講義終了後、第三校舎講師控室(第3校舎1階)、もしくは教務課(本校舎1階)を通じて連絡をしてください。

## ■備考

なし

## 博物館教育論

浪川 幹夫

3年 前期 学芸員課程必修 (2単位 講義)

## ■授業の方針・概要

博物館法の基本法が社会教育法であるところから、博物館における教育は博物館の総体であると考えなければならない。したがって、博物館の基本機能は、すべて博物館教育を目的としている。つまり、収集・保存・研究は展示と教育を目的としているので、博物館教育論は博物館の最終機能となる。

展示は博物館教育の基本であるが、展示論は別途科目として存在するため、ここでは展示及び展示関連事業を基本とした教育諸活動に焦点をあてて理解を求める。

## ■到達目標（学修成果）

- ・博物館教育活動の歴史と概念の理解
- ・博物館における教育諸活動の具体的実践

## ■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

学芸員になるための資格取得（大学を卒業して学士の学位を取得して学芸員になるための資格を取得する方法）のために、文部科学省令の定める大学で習得すべき博物館に関する科目の単位の一つ。

## ■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	ガイダンス 自己紹介（学生も） 鎌倉の博物館紹介 授業の進め方	予習：シラバス（学芸員課程部分）をよく確認する	30分
2回	博物館法および関係法規から見る博物館教育（講義・前半）	復習：配布資料の読み返し、授業の振り返り	30分
3回	博物館法および関係法規から見る博物館教育（講義・後半）	復習：配布資料の読み返し、授業の振り返り	30分
4回	博物館教育の概念と歴史・教育論研究史（講義）	復習：配布資料の読み返し、授業の振り返り	30分
5回	博物館教育の具体例Ⅰ ミュージアムワークシート・ミュージアムワークショップ（講義）	復習：配布資料の読み返し、授業の振り返り	30分
6回	博物館教育の具体例Ⅱ 講演会・講座・出前授業・各種ワークショップ（講義）	復習：配布資料の読み返し、授業の振り返り	30分
7回	杉野学園衣裳博物館を見学（博物館教育論の視点から）	復習：配布資料の読み返し、授業の振り返り	30分
8回	杉野記念館を見学（博物館教育論の視点から）	復習：配布資料の読み返し、授業の振り返り	30分
9回	展示資料の取り扱いと、展示手法について（博物館教育論の観点から・実技）	復習：配布資料の読み返し、授業の振り返り	30分
10回	ミュージアムワークシートの作成 概念説明（講義と、対象博物館選定・実技）	復習：配布資料の読み返し、授業の振り返り（ワークシート作成準備）	30分
11回	ミュージアムワークシートの作成（実技）	復習：ワークシートの作成	30分
12回	ミュージアムワークシートの作成（実技）	復習：ワークシートの作成	30分
13回	ミュージアムワークシートの作成（実技）および教育用としての展覧会図録の作成について（講義）	復習：ワークシートの作成および配布資料の読み返し、授業の振り返り	30分
14回	博学連携 出前授業（講義と実技） （博物館の裏側について。出前授業の実例紹介）	復習：配布資料の読み返し、授業の振り返り	30分
15回	まとめ（成果物の提出と評価）	復習：14回全体の振り返り	40分

## ■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

レポートの添削返却

## ■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%
外部評価・検定試験結果	0%

## ■教科書

なし

## ■参考文献

随時 紹介する。  
レジュメ等、資料を配付する（随時）。

## ■オフィスアワー・研究室

講義日の講師控室、もしくは教務課を通じて連絡をしてください。

連絡：第3校舎講師控え室（第3校舎1階） 又は 教務課（本校舎1階）

出講日：土曜日

## ■備考

なし

## 博物館情報・メディア論

丸山 憲子

3年 後期 学芸員課程必修 (2単位 講義)

## ■授業の方針・概要

博物館を「情報」「メディア」という語をキーワードに学んでいく。「情報」「メディア」という用語の理解の上、実際の今日の博物館での資料の情報化他「情報」の諸相、「情報」の伝達手段としての「メディア」の実際について学習していく。

## ■到達目標（学修成果）

博物館における「情報」「メディア」についての基本的知識の習得  
博物館活動における「情報」の本質について考察できることを目標とする。

## ■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

学芸員になるための資格取得（大学を卒業して学士の学位を取得して学芸員になるための資格を取得する方法）のために、文部科学省令の定める大学で習得すべき博物館に関する科目の単位の一つ。卒業要件科目ではありません。

## ■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	オリエンテーション（博物館情報・メディア論の概要の説明・授業計画）	予習：シラバス（学芸員課程部分）を読んでおくこと。	30分
2回	コレクション・ドキュメンテーション（1）について学習する。	予習：教科書の情報メディア論の部分を読んでおくこと。 復習：語句を整理しておくこと。	30分
3回	コレクション・ドキュメンテーション（2）について学習する。	復習：語句を整理しておくこと、コレクションドキュメンテーションについてまとめておくこと。	60分
4回	データベース化、デジタル・アーカイブについて学習する。	復習：配布資料の読み返し、語句を整理しておくこと。デジタルアーカイブのまとめをしておくこと。	60分
5回	博物館における情報管理と情報発信について学習する。	復習：配布資料の読み返し。	30分
6回	インターネットを利用した他機関との連携について学習する。	予習：インターネット上で博物館データベースを閲覧しておくこと。 復習：配布資料の読み返し。	30分
7回	博物館における知的財産権について学習する。	復習：教科書の読み返し、語句の整理しておくこと。	30分
8回	RFIDなどの新技術と博物館活動について学習する。 資料の情報化・情報管理・情報発信についてのまとめ	復習：配布資料の読み返し。	30分
9回	メディアとしての博物館について学習する。	復習：配布資料の読み返し。	30分
10回	博物館における視聴覚メディアの歴史を学習する。	復習：配布資料の読み返し。	30分
11回	教育普及活動における情報伝達の方法について学習する。	復習：配布資料の読み返し、語句の整理しておくこと。	30分
12回	映像について学習する。	復習：配布資料の読み返し。	30分
13回	博物館における映像展示をはじめとした視聴覚メディアについて学習する。	復習：教科書の読み返し。	30分
14回	博物館における視聴覚メディアの導入及びその効果について学習する。	復習：視聴覚メディアについてのまとめをしておくこと。	90分
15回	総まとめ	復習：振り返り	60分

## ■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

小テスト・試験後の解説

## ■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%
外部評価・検定試験結果	0%

## ■教科書

『新時代の博物館学』全国大学博物館学講座協議会西日本部会編 芙蓉書房出版

## ■参考文献

随時 紹介する

課題内容に即した資料プリントを配布します。

## ■オフィスアワー・研究室

講義日の講師控室、もしくは教務課を通じて連絡をしてください。

連絡：大学校舎講師控え室 又は 教務課（本校舎1階）

出講日：土曜日

## ■備考 積極的に博物館見学をし、manaba等を利用しての見学記の発表をしてもらいます。